

高校同期生の登山旅行 今年も奈良で

長崎西高第12回卒同期生の登山旅行が奈良県の山を対象に行われた。参加者は15名。男性10、女性5。今年もまた常連が欠けて、参加者が少なくなった。自らの健康と共に介護など家族の事情が絡んでのことで、これはやむを得ない

9月17日(月) 14時近鉄八木駅に集まり、ホテルが差し向けた迎えの車でホテル「ウエルネス大和路」に。時間はたっぷりあるので近くの天香久山(152m)に登った。畝傍(うねび)山、耳成(みみなし)山と共に、「大和三山」をなすこの山は古代から霊山としてあがめられて来たそうだ。蚊に食われながら、この著名な山を散策。

鬱蒼として木々の茂る山頂からは西方の畝傍山が見えた。

9月18日(火) あいにくの雨、今日は二上山登山の日。71歳の人々が傘差して山

登りというのもどうかと言うことで、予定変更。明日香村稲渕の棚田とヒガンバナを観に出かけた。しかしヒガンバナはまだ咲いていなくて、案山子まつりの出品作もロケーションが整わない感じで迫りに欠けている。作品の中には土庫病院に勤務していたSさんのものや、高田市内の老人施設入所者たちの労作もあった。

曾我馬子の墓と言われる大型古墳・石舞台や万葉文化館を見学した後、當

麻に向かい、柿の葉寿司の弁当をもって当麻寺から鳥谷口古墳へと歩く。この古墳こそ、大津皇子の真の墓とされており、小規模で使用している素材の粗末さなどが指摘されている。

傘はたたんで歩くが、雨もよいの空は続いており、バスで御所市葛城古道・九品寺の千体地蔵を見、早々にロープウェイで葛城山に昇る。

標高959mの山頂に近い葛城高原ロッジに投宿。





9月19日(水)朝、ロッジの部屋の窓からは金剛山とそれに連なる山並みが一望された。そこに靄(もや)がかかってはいるが、晴れ渡った空がひろがっている。朝食前に葛城山山頂に向かう。コオニユリ、ワレモコウ、ツリガネニンジンが咲いている。

「晴天なら二上山に登りたい」との希望を容れて、再び當麻・山口神社駐車場に。ここから私の早朝登山コースを

上 コオニユリ ゆっくりと歩く。全員参加だ。従来「観光コース」 **下 ワレモコウ**

に回っていた人達もがリュックサックを背負い、一步一步踏みしめるようにして登っている。海拔517mと低山ながら、傾斜は急で、階段に次ぐ階段の道が続くのだ。悠々と歩を運ぶ人も居るが、多くが息を荒げている。

たかが二上山、されど二上山

ようやく、馬の背に到着。ここは雄岳と雌岳(474m)の間の鞍部(あんぶ)＝コルなのだ。通り抜ける風は秋の気配、火照った肌に心地よい。何人かを残して雄



下 ツリガネニンジン

岳をピストンした後、全員で雌岳に登って、直下のあずまやで弁当をひろげた。

間もなくヤマガラが飛んできて、餌をねだってベンチの上で盛んにパフォーマンス。しかし遠来の客たちはピーナツも米粒も持っては居ない。野生のヤマガラを初めて見る人達は大喜びだが、当てがはずれた小鳥たちには気の毒。

下りは大阪側の万葉の森駐車場におりたが、この下山路も相当こたえた人達も居て、途中で休憩をとった。

さて、この二上山で10月9日、思いがけない騒動が持ちあがった。前日この山に登った80歳代の男性が翌日になっても帰宅してこない。大掛かりな捜索活動が行われたのだ。何台ものパトカーと消防車、数十人の警官や消防団員、警察犬など物々しく、要所、要所は数人の男たちが押さえ、登山道とその枝道ではホイッスルの鋭い音と、不明者の名を呼ぶ男たちの声が響いていた。

私も中腹の排水路補修の手をとめて、馬の背で複数の男たちに登山道と主な枝道についての説明を行った。

右 ツルボ(明日香村)

昨年もこの山で不明者捜索が行われた。二上山とて侮ってはならないのだ。

以上158号

